

令和6年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	126	67	69	2.4	5.8
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	118	78.0	58.5	66.6	66.3	72.0	2.3	3.4	7.1	1.2	2.9
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	126	76.1	56.8	64.2	59.0	67.2	4.4	3.2	3.9	2.4	3.1
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	45.9	54.0	9.3	5.2	9.5	6.6	7.9
1 年	学校	143	67.8	61.1	56.2	68.4	69.6	4.8	4.9	5.9	1.7	3.5
	大阪市	—	—	53.7	—	55.6	—	—	5.5	—	4.0	—
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	116	137.4	—	129.1	—	186.6	—	129.0	—
10月25日	大阪市	—	105.7	—	104.6	—	149.6	—	102.1	—

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			(数)	(cm)	(点)	(回)					
2 年 男 子	学校	25.29	28.14	48.03	51.16	84.00		8.36	189.63	19.94	42.38
	大阪市	28.39	26.42	42.74	51.50	79.76		8.08	194.64	19.84	41.10
	全国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98		7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	20.02	23.53	50.66	45.81	52.95		9.13	164.88	11.77	47.02
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98		9.01	167.01	12.04	47.51
	全国	23.18	21.56	46.67	45.65	50.67		8.96	166.32	12.40	47.37

**令和6年度 大阪市立北稟中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞平均正答率に関して、大阪市と比較して11ポイント、全国と比較して8.9ポイント上回った。

問題別にみると、特に「読むこと」の領域において、高い数値が出ている。

記述式の問題もよく解答できており、「思考・判断・表現」の観点において顕著な成果が見られる。

＜数学＞平均正答率に関して、大阪市と比較して18ポイント、全国と比較して16.5ポイント上回った。

問題別にみると、特に「数と式」「図形」の領域において、高い数値が出ている。

平均無解答率に関しても、大阪市・全国の平均の約半分であり、難問にあたっても最後まで粘り強く解こうとする姿勢が見られる。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞それぞれの教科の平均点は、大阪府と比較して、

国語は12.8ポイント、社会は8.1ポイント、数学は17.5ポイント、理科は14ポイント、英語は18.4ポイント高い数値であった。5教科合計の平均点の対府比は、1.26であった。

平均無解答率も、大阪府と比較して全教科とも低い数値となっている。(=無解答が少ない)

＜課題＞社会科において、大阪府の平均点を上回っているが、その差が10ポイントを下回った。

○大阪市英語力調査(GTEC)

＜成果＞ CEFR A1レベル相当以上の割合は87.9%で、大阪市平均の57.5%と比較して平均比1.53と非常に高い値であった。

○中学生チャレンジテスト・チャレンジテストPlus(1年生)

＜成果＞ いずれの教科においても、平均点は大阪府および大阪市と比較して十分に高い値であった。対府(社会・理科は対市)平均比は、国語1.16、社会1.14、数学1.13、理科1.23、英語1.13であった。

○中学生チャレンジテスト2年生

＜成果＞ いずれの教科においても、平均点は大阪府と比較して十分に高い値であった。

対府平均は、国語1.16、社会1.15、数学1.27、理科1.29、英語1.24であった。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

＜成果＞

男子の体力合計点の平均値は42.38で、大阪市での平均値41.10に比べて1.28ポイント高かった。質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問では、最も肯定的な「好き」と回答した生徒が73.1%で、大阪市における平均値63.5%に比べ、9.6ポイント高かった。総運動時間60分未満の生徒は11.3%で、大阪市の13.3%に比べ2ポイント低い値であった。

女子の体力合計点の平均値は47.02で、大阪市での平均値47.51に比べて0.49ポイント低かった。質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問では、最も肯定的な「好き」と回答した生徒が39.7%で、大阪市における平均値42.2%に比べ、2.5ポイント低かった。総運動時間60分未満の生徒は32.0%で、大阪市の27.7%に比べ高い値であった。

【今後に向けて】

・各学年において対府平均比の顕著に高い教科における学習指導の取組について共有し、学校全体の授業改善に活用したい。

・今年度は、女子が総運動時間60分未満の生徒が大阪市平均に比べて低い値であった。今後も保健体育の授業や運動部活動を通して、運動やスポーツに親しみ、適切な運動習慣を身につけさせていく必要がある。